

自 平成二十七年九月十二日
至 平成二十七年十二月六日

初しぐれ

展示目録

寄付

掛物

北村宗親筆 時雨釜

脇

小倉山硯筥 中山胡民作

能久旧蔵

香合

呉須 松皮菱

赤星家伝来

手焙

時代 梅小鳥地文

汲出碗

平戸焼鶴の絵時代栗毬盆ニノセテ

葎盆

一閑作 小丸手付

火入

絵唐津四方 葦の絵

濃茶

小間

掛物

近衛家熙筆 和漢朗詠集切

冬卷頭 初冬・冬夜

神無月ふりみふらずみ定めなく
時雨ぞ冬のはじめなりける

おもひかねいもがりゆけば冬の夜の
川風さむみ千鳥なくなり

花入

古伊賀杵形耳付

釜

古天明 時雨今地文霰

炉

縁

時代沢栗 久以作在印

水

指

古丹波耳付共蓋

茶

入

膳所焼 銘初時雨 大膳宗慶箱紅心極

仕覆 格子間道
椀家 時代独楽

茶

碗

一入作 黒 銘常盤 了々齊箱

茶

杓

覚々齊作 共筒 歌銘枕さびしく

如心齊箱

続き薄茶

後炭香合

織部焼 はじき

茶 碗

黄瀬戸胴紐 銘唐衣

替

古瀬戸

茶 器

瓢 無事蒔絵 大垣清遠作

建 水

南蛮内渋

蓋 置

覚入作 紅葉・銀杏透

干菓子器

根来輪花盆

無窮亭旧蔵

番外

松村景文筆 四季花鳥山水図 五幅対の内から三幅

福祿寿山水図

山梅雉子春草図

合歡木芍薬連鵲図

楓尾長秋草鶉図

墨老松皴図

元井碧筆 暁寒図 共表装

北大路魯山人作 繪瀨戸秋草文壺

全 割山椒向付 五客

全 備前長板皿

全 紅葉文土器皿 五客

全 備前銀彩德利・盃

全 赤繪汁次紅白一対

今回の展示について

今年は、本阿弥光悦が徳川家康から鷹峰の地を賜わり、光悦村を創ってから四百年、大師会とともに我が国の二大茶会といわれる光悦会が百年の節目を迎え、私どもの美術館周辺も余波を感じるこのごろです。

今回の展示は、和漢朗詠の冬の巻頭を飾る有名な歌「時雨ぞ冬のはじめなりける」をテーマに据えて、親しい茶友と気軽な雰囲気でお茶を楽しもうと企画してみました。

ところで五月には、長生庵十二代堀内宗心宗匠が天寿を全うされました。創設者・北村とは最も縁の深かったお方です。久田尋牛齊宗匠の折と同様に、小規模ではありますが展示コーナーを設け宗匠の作品や手蹟から、そのよすがを偲びたいと存じますので、ご覧くださいます。

北村美術館

京都市上京区河原町今出川南一筋目東入ル

TEL (075) 256-0637